

三角山巡検

三角山は札幌市西区にある標高 311.3m の山である。
森林には数多くの植物が自生していて、ニリンソウやクルマバソウ、ナツボウズなど、
春から初夏にかけては特に様々な種類がみられる。

三角山の登山を始めてすぐの登山道の脇に、白い花
が生えている。(写真)

これは冒頭にも出てきた「ニリンソウ」である。
花びらは丸く 6 枚ついていて、ひとつ見つけられれば、
周りにもたくさん生えていることが多い。



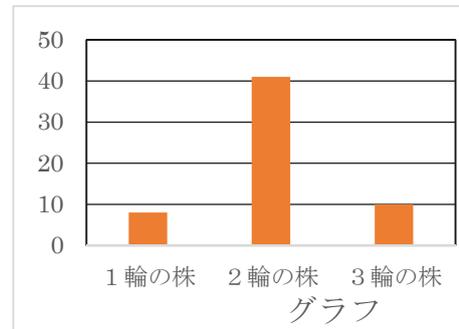
↑写真

「ニリンソウ」は名前の通り、ひとつの株に対して
「2 輪の花が咲く」。

しかし、写真の赤丸の株にはつぼみを含めて、「3 輪」もついている。
そして、写真には写っていないが「1 輪」のものもあった。

今回は先生からの課題で、「ニリンソウ」がひと株につき何
輪の花をつかせることが多いのかを調べることになっていた
のだが、

「1 輪の株が 8 株。2 輪の株が 41 株。3 輪の株が 10 株。」
という結果になった。(9 班調べ・グラフ)



ちゃんと名前の通りに 2 輪が 1 番多くなっていた。
1 輪や 3 輪はあくまで例外ということだと思う。

しばらく登山を続けていると、途中からまったく「ニリンソウ」を見かけなくなった。

標高で植生が変わったのだろう。「植生が変わる」ということを気にしたことも、
実感したこともなかったので、気づいたときにはおもしろかった。

今回、三角山巡検を行ってみたのだが、とてもおもしろかった。
自分が植物に関する知識をあまり持っていなかったからというだけかもしれないが…。
しかし、今回の巡検のおかげで前よりもずっと植物に関する興味は出てきたと思う。
機会があれば、今度は別の山を登ってみたい。